

Briefing Transcription

|| 対談動画文字起こし (2026年9月14日公開) ||

バルテス・ホールディングス株式会社 × DAIBOUCHOU

4442 東証グロース市場

[企業情報はこちら >>>](#)

[紹介動画はこちら >>>](#)

2026年9月14日 (月)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 出演者	01
■ 冒頭の挨拶	02
■ 事業説明	03
■ 質疑応答	06
■ 終わりの挨拶	18

■ 出演者

バルテス・ホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

田中 真史様

著名投資家

DAIBOUCHOU

株式会社フィスコ マーケットレポーター

高井 ひろえ (司会進行役)

■ 冒頭の挨拶

▲フィスコ 高井

皆様、こんにちは。フィスコマーケットレポーターの高井ひろえです。今回は、バルテス・ホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長 田中 真史(たなか しんじ)様にご登壇いただき、著名投資家 DAIBOUCHOUさんから気になる質問をぶつけていただきます。それでは、本日登壇いただく、田中様、DAIBOUCHOUさんをご紹介します。まずは、バルテス・ホールディングス株式会社 田中様です。よろしくお願い致します。

■バルテス・ホールディングス 田中様

こんにちは。よろしくお願いします。

▲フィスコ 高井

田中様は、2004年にバルテス株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。ソフトウェアテスト・品質評価事業の礎を築き、事業成長を牽引してこられました。また、複数の子会社の設立および積極的なM&A展開により、グループの事業領域拡大と事業基盤強化に貢献されました。

近年は、2023年10月の持株会社体制への移行に伴い、持株会社であるバルテス・ホールディングス株式会社の代表取締役会長兼社長として、企業価値向上と持続的な成長のためにグループ全体のかじ取りに注力されています。一方で中核であるソフトウェアテスト事業を担うバルテス株式会社においては代表取締役会長として後任の田邊社長ほか、新たな役員陣のサポートに徹し、後進の育成を積極的に進められています。

続いて、著名投資家のDAIBOUCHOUさんです。よろしくお願いいたします。

●DAIBOUCHOU

こんにちは、よろしくお願いいたします。

▲フィスコ 高井

DAIBOUCHOUさんは、200万円の元手を一時10億円に乘せた実績を持つ著名な個人投資家です。2000年5月に株式投資開始し、ITバブル崩壊時の暴落を資産バリューストック株で回避し、不動産株への逆張り投資で2004年10月に資産1.5億円を達成。リーマンショックでその大半を失うという壮絶な経験をされました。しかし、そこから独自の『超分散投資』へとスタイルを昇華させ、再び資産10億円の舞台へと返り咲き、X(旧Twitter)のフォロワーは14万人を超えています。

田中様、DAIBOUCHOUさん、よろしくお願いいたします。それでは、まずは、田中様に企業説明を実施いただきます。DAIBOUCHOUさんも適宜気になる点などございましたらお話しいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

事業説明

参照元：2027年3月期第1四半期決算説明資料 45頁

バルテスグループの目指す姿



FOR QUALITY CONFIDENCE

品質向上のトータルサポート企業

バルテスグループは、品質向上のトータルサポート企業として、ソフトウェアテストをはじめ、さまざまなサービスを提供しています。世の中のあらゆるものに組み込まれるソフトウェアの品質を守り、向上させることで、安心・安全な世界の実現に貢献します。



©2026 VALTES HOLDINGS CO.,LTD.

1

■バルテス・ホールディングス 田中様

それではよろしく願いいたします。わたくしどもバルテスグループは、「FOR QUALITY CONFIDENCE」を掛け、「品質向上のトータルサポート企業」として事業を展開しています。ソフトウェアが社会のあらゆる場面に組み込まれる現代において、その品質を守り、高めることで、安心・安全な社会の実現に貢献することを目指しております。

参照元：2027年3月期第1四半期決算説明資料 46頁

会社概要



「品質向上のトータルサポート企業」経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス・ホールディングス株式会社
会社設立	2004年4月 ※2023年10月持株会社化移行により名称変更
上場	2019年5月 東証マザーズ (場 東証グロース 証券コード：4442)
本社住所	大阪市西区阿波座 1-3-15 (大坂本社)
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
グループ会社	バルテス株式会社 バルテス・インベシジョンズ株式会社 VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines) バルテス・ソリューションズ&AI株式会社 株式会社アール・エス・アール タビュラ株式会社
従業員数	999名 (2026年6月末時点 グループ7社計)
内、総エンジニア数	852名 (2026年6月末時点 グループ7社計)
総資産	6,294百万円 (2026年6月末時点 グループ7社連結)



代表取締役会長兼社長
田中 真史
Tanaka Shinji

©2026 VALTES HOLDINGS CO.,LTD.

2

当社は2004年に、ソフトウェアテストを専門に手掛ける企業として設立いたしました。一時リーマンショックなどの厳しい状況もありましたが、おかげさまで、ソフトウェアテスト市場の伸長に合わせて順調に事業拡大し、2019年には東証マザーズ市場・現グロース市場へ上場いたしました。その後、2023年10月にはグループガバナンスの強化を目的に、持ち株会社体制へ移行しております。

バルテス・ホールディングス株式会社 × DAIBOUCHOU | 2026年9月14日 (月)
4442 東証グロース市場

事業説明

現在は創業23年目にあたり、次世代経営層の育成を進めながら、さらなる成長に向けた基盤強化を進めております。

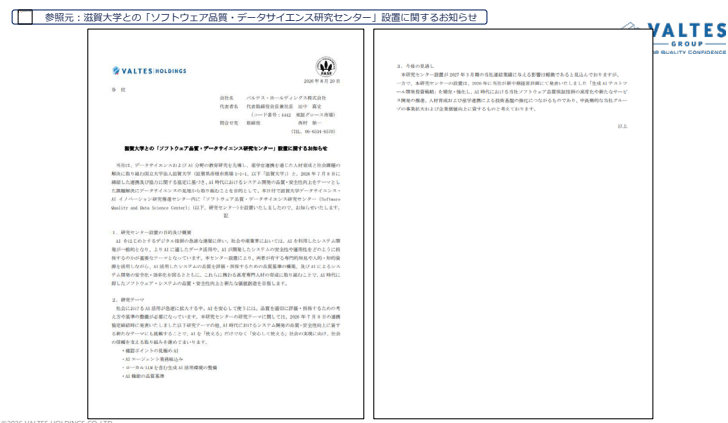
あわせて近年はM&Aも積極的に展開しておりまして、平均1年に1社ほどグループインしていただいております。現時点では、持ち株会社であるバルテス・ホールディングスを含むグループ7社体制で事業を展開しております。



次に前年2月より注力しております、「生成AIテストツール開発への投資戦略」に関してご説明いたします。

前年5月発表の新中期経営計画や、今年6月発表の成長可能性資料などに詳細記載しておりますが、端的にいうと当社の生成AIテストツール類へ、3か年で総額12億円の開発投資を実施する計画でございます。この投資を通じてソフトウェアテストの全工程の自動化をすすめ、ソフトウェアテスト事業の在り方を現状の「人に依存したビジネス」から「人に依存しないビジネス」へ構造転換し、グループ全体の生産性を大きく向上させていきたいと考えております。

事業説明



これら生成AIテストツール開発強化の一環として、つい先日の8月20日、データサイエンス・AI分野をリードする滋賀大学様と、共同研究を目的に、「ソフトウェア品質・データサイエンス研究センター」を設置することを発表いたしましたので、併せてご紹介させていただきます。

AI 技術の急速な進展にともない、社会や産業界においては、AI を利用したシステム開発が一般的となり、より AI に適したデータ活用や、AI が開発したシステムの安全性や運用性をどのように担保するのが重要なテーマとなっています。

本センター設置により、両者が有する専門的知見や人的・知的資源を活用しながら、AIを利用したシステムの品質を評価・担保するための品質基準の構築や、AI によるシステム開発の安全化・効率化を図るとともに、これらに携わる高度専門人材の育成に取り組むことで、AI 時代に即したソフトウェア・システムの品質・安全性向上と新たな価値創造を目指してまいります。

こうした取り組みをとおして、AIを使ったシステム開発とその運用を支援できる「AI時代に即した品質向上のトータルサポート企業」へ進化していきたいと考えておりますので、応援のほどお願いいたします。

▲フィスコ 高井

ありがとうございました。

それでは続いて、DAIBOUCHOUさんに、気になる点についてご質問をいただきたいと思います。
DAIBOUCHOUさん、よろしくお願いいたします。

質疑応答

●DAIBOUCHOU

DAIBOUCHOUです。よろしくお願いします。さまざまなテスト受託会社がある中で、貴社が選ばれる理由や、顧客からの評価ポイントはどこにあるのでしょうか。

■バルテス・ホールディングス 田中様

参照元：2027年3月期第1四半期決算説明資料 38頁
**自社の強み① 高スキル テスト専門エンジニアが多数在籍
高難易度なエンタープライズ領域へのナレッジ蓄積**

人的・技術的優位性

- **ソフトウェアテストに関する専門教育を受けた正社員500名超**
- **JSTQB[®] 高保有率**
- **JSTQB[®] Global Partner 日本初認定**
- **年間約7,000^{※1}プロジェクト、1,300社以上の導入実績**
- **プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積**
- **専門技術人材を供給可能な外部協力会社ネットワーク**
- **ISO/IEC/IEEE 29119^{※2} 準拠テンプレート**
- **QUINTEE[®] Ⅱ^{※3} (テストの進行基準)**

※1 JSTQB Japan Software Testing Qualification Boardより、登録ソフトウェアテスト技術者登録者数に
※2 JSTQB Japan Software Testing Qualification Boardより、登録ソフトウェアテスト技術者登録者数に
※3 株式会社バルテス 2025年度第1四半期決算説明資料より、JSTQB、ISO、IEC、IEEEの認証取得状況
※4 JSTQB Japan Software Testing Qualification Boardより、登録ソフトウェアテスト技術者登録者数に
※5 QUINTEE[®] Ⅱは、登録ソフトウェアテスト技術者による、高難易度なエンタープライズ領域へのナレッジ蓄積

エンタープライズ領域へのナレッジ蓄積

- **潜在市場が大きい、高度な技術を要するエンタープライズ領域拡大のため専門部署を設置**
- **エンタープライズ領域における専門ナレッジの蓄積**

エンタープライズ領域の特長

- **単価：高 案件規模：大 契約期間：長**
- **開発、業務知識等、テスト以外の知識を求められる
→ 難易度：高 参入障壁：高**
- **マイグレーション等^{※4}の増加で市場：拡大 潜在市場：巨大**

	自社の事業領域	潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト市場	エンタープライズ	巨大	成熟期	高
	組み込み	大	成熟期	高
	Web・スマホ	中	成長期	中
	エンターテインメント	小	成熟期	低

※6 ソフトウェアテスト分野、システム、クラウド、IoT、AI、セキュリティ、デジタルトランスフォーメーションなど、幅広い分野で需要が拡大している

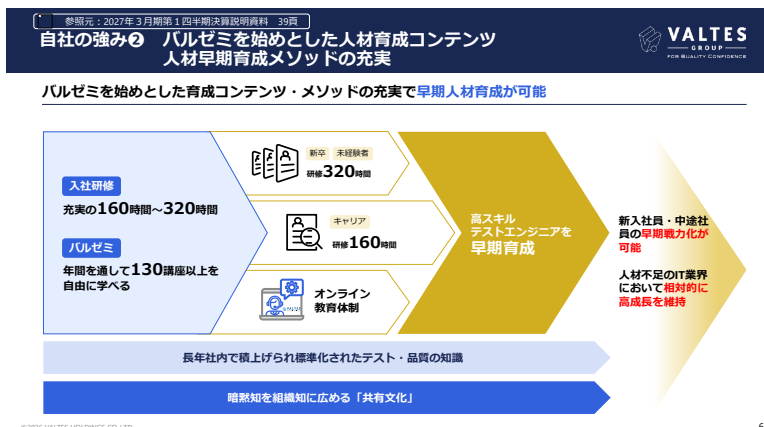
専門性の向上によって強固な参入障壁を構築し、価格競争を回避

ありがとうございます。1つは、「QUINTEE (クインティ)」という独自のテスト評価基準を持っていることではないかと考えております。20年以上、専門家として積み上げてきたテスト品質に関するナレッジを、きちんと体系化できているということだと考えております。

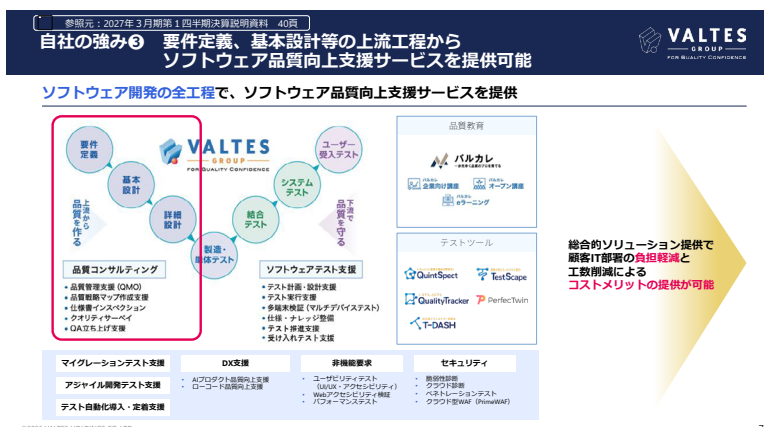
また、体系化されたナレッジをベースとする専門教育を受けた正社員も500名を超えております。JSTQBというテストエンジニア資格の保有率が95%を超えるなど、品質への知見やテストレベルの高さは業界随一だと考えておりますし、そういった点をご評価いただいているものと考えております。

バルテス・ホールディングス株式会社 × DAIBOUCHOU | 2026年9月14日 (月)
4442 東証グロース市場

質疑応答



さらに、その専門性を支える人材育成力も強みです。新卒未経験者には320時間、経験者にも160時間の入社時研修を実施し、加えて130講座以上の教育コンテンツを用意するなど、継続的な育成に力を入れております。おそらく、同業他社でここまで手厚く教育を実施できている企業はないのではないかと考えており、そうした企業としての姿勢も高くご評価いただいている点だと考えております。



加えて、テストの実施だけではなく、要件定義や基本設計など上流工程からの品質支援サービスを提供している点や、さまざまな自社開発テストツールをリーズナブルにご提供できている点も、私どもを選んでいただいている大きな理由だと考えております。

●DAIBOUCHOU

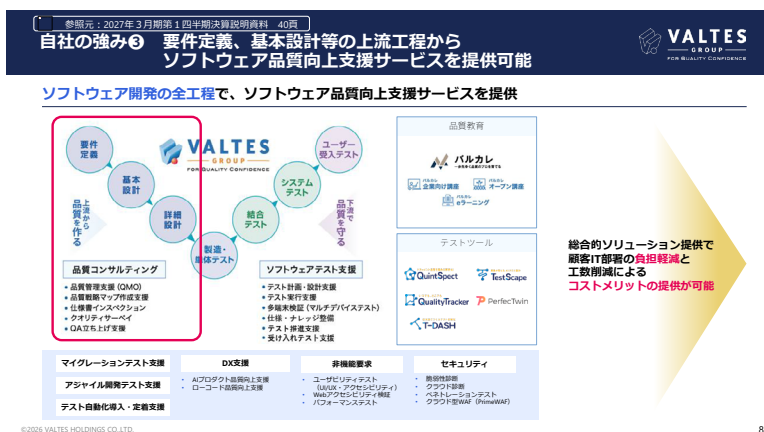
ありがとうございます。次に、生成AIの進展によって顧客側がテスト工程を内製化し、テストの外注需要が減少するリスクはありますか。

バルテス・ホールディングス株式会社 × DAIBOUCHOU
4442 東証グロース市場

2026年9月14日 (月)

質疑応答

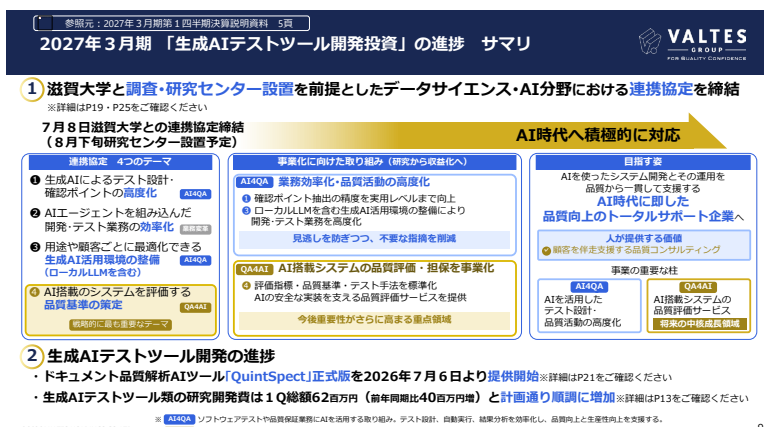
■バルテス・ホールディングス 田中様



8

おっしゃるとおり、図のV字の右側、開発の下流工程における単純なテスト実行は、生成AIに取って代わられていくリスクがあると考えております。

一方で、AIが高度になるほど、それを効率のかつ安全に利用・制御するための人間による調整の必要性も高まり、V字の左側、開発上流からの品質管理支援ニーズは拡大するものと考えております。また、組み込みシステムのように実機を用いた検証が必要な領域や、セキュリティ上の理由から外部接続を制限する環境では、AIだけで品質保証を完結させることは難しく、専門家による判断が引き続き重要となります。こうした高度な知見を要する品質保証領域において、外部専門会社への外注ニーズは拡大するものと考えております。



9

さらに、今後は生成AIを利用したプログラミングが主流となることは、止められない流れであると考えております。AIによって生成されたシステムや、AIを搭載するシステムの品質・安全性を、それに適した観点で評価・担保するという新たな品質保証ニーズも生まれてきております。

先日発表いたしましたとおり、当社は滋賀大学様とともに研究センターを設置し、これら新たなAIシステムを評価する品質基準の策定や、生成AIを用いたテストツール類の精度向上、生成AI活用環境の整備を推し進めてまいります。生成AIが開発の中心となる新たな時代において、AIに仕事を奪われる企業ではなく、自ら積極的に適用し、新たな価値創造と成長を目指す企業だとして認識いただければ幸いです。

質疑応答

●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。次に、既存の「T-DASH」「QualityTracker」に加えて、新たに「TestScape」「QuintSpect」が加わりますが、テスト工程はどのように変化・改善するのでしょうか。

■バルテス・ホールディングス 田中様



既存の「T-DASH」と「QualityTracker」は、テストの自動実行とテスト管理のツールですが、「TestScape」は、その上流にあたるテスト設計を自動化するツールです。また、今回正式にローンチした「QuintSpect」は、さらに上流である仕様書そのものを自動で精査するツールと言えます。

これら新しいツールの開発により、従前のものよりさらに上流工程での自動化が進み、全工程の自動化に一歩近づいたとご理解いただけますと幸いです。

●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。次に、「QUINTEE」という貴社独自のテストノウハウを組み込むことで、一般的な生成AIに比べてどの程度の品質差が生まれるのでしょうか。

質疑応答

■バルテス・ホールディングス 田中様

参照元：2027年3月期第1四半期決算説明資料 43頁

自社の強み⑥ 生成AIテスト設計ツール「TestScape」

VALTES GROUP
FOR QUALITY CONFIDENCE

ソフトウェアテスト専門事業者としての豊富な実績を活かした生成AIテスト設計ツール「TestScape」

蓄積された実績とテスト基準

- 直近年間約7,000プロジェクト、1,300社以上の導入実績
- ソフトウェアテスト専門事業者として20年を超える業歴・膨大なテスト実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- ISO/IEC/IEEE 29119^①準拠テンプレート
- 当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したテスト進行基準「QUINTEE[®]」

① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

中間生成物の作成で生成AIの透明性確保

バルテスの生成AI 過程や根拠が説明できる！

仕様書/参考資料 → AIが中間生成物を作成 → テストケース

AIは中間生成物から生成し、その過程や根拠を説明できる。

生成AIは中間生成物を作成するため、テストケース作成の過程や根拠が透明化される。

他の生成AI 過程や根拠が不明

仕様書/参考資料 → 経過がブラックボックス → テストケース

他の生成AIの場合、テストケースのみ出力する性質のものも多く、蓄積する中間生成物が存在しないブラックボックス。

高精度・透明性の高い生成AIテストツールの開発で競争優位

ツールの利用で生産性向上

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

©2026 VALTES HOLDINGS CO., LTD.

品質についてご説明するために、まずは「QUINTEE」に基づく当社の生成AIテスト設計ツール「TestScape」を利用した場合と、その他の生成AIテスト設計ツールを用いた場合の違いをご説明させていただきます。

当社のツールは、根拠である中間生成物をあわせて生成し、どのような考えでその結果に至ったのかを確認できます。これに対して、他の生成AIではその経過がブラックボックスであるという点が大きな違いと言えます。生成AIが作り出すものは、一見すると期待どおりに動作しているように見えても、抜け漏れなく動いているか、もしくは要件にない動きを勝手にしていないかを容易に確認できない点が大きな問題となります。また、なぜその実装になったのか、どの要件をどのように反映したのかについての説明がないため、その後の保守や改修が非常に難しいものとなります。つまり、なぜその設計・実装になったのかを検証できること、さらにその後の保守や更新を適切に継続できることも、品質の一部と言えるのです。

現状の生成AIは、成果物を生成することには優れていますが、これら「根拠を説明できること」「要求どおりであること」「継続的に保守できること」という品質を満たしているとは言えません。当社の「QUINTEE」は、現状、このギャップを埋める助けになるものだと考えておりますし、将来的にはそのギャップを検証し、システム開発における生成AI活用を安心してお任せいただくことこそ、当社の新たな役割であり、事業機会になり得ると考えております。

滋賀大学様との共同研究においても、こうした生成AI時代における評価手法や品質保証のあり方について研究を進め、新たな市場開拓につなげていければと考えております。

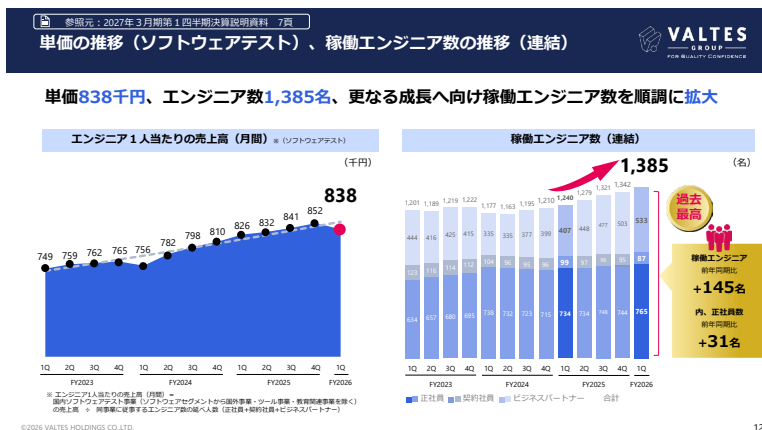
●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。次に、「TestScape」による生産性向上が進んだ場合、まず正社員の採用を抑えるのか、ビジネスパートナー（BP）の比率を低下させるのか、どちらが利益率の改善につながるとお考えでしょうか。

バルテス・ホールディングス株式会社×DAIBOUCHOU | 2026年9月14日(月)
4442 東証グロース市場

質疑応答

■バルテス・ホールディングス 田中様



12

当社の正社員が生成AIテストツール類を駆使して、お客様の開発に伴走することが目標ですので、生産性が向上した場合、売上高の伸びに対するエンジニア数の比率は低下するものと考えております。ただし、相対的に正社員エンジニアの増加率は低下するとしても、人数そのものは増加していくものと考えております。

また、BPの皆様に関しても、当社プロパーの正社員が持っていないスキルや知見を補完していただくことが目的ですので、早々に比率を低下させるものではないとお考えください。

したがって、ご質問への回答といたしましては、現状の比率等を維持しながら、正社員およびBPの皆様が緩やかに増加するという現在の傾向が続くのではないかと考えております。

一方で、ツール類の利用比率が上がれば上がるほど、BPの皆様にも当社のツールをご利用いただく機会が増えていくのではないかと考えておりますし、その先の未来を考えて、当社ツールの利用資格をBPの皆様にも広げていく必要があると考えております。

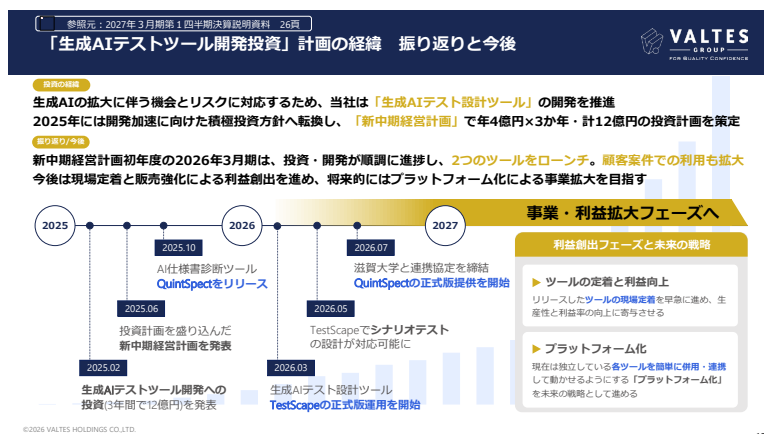
●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。次に、コストを削減できても、価格競争が発生したり、顧客からの値下げ要求が来たりするリスクがあります。生産性向上の効果を、どの程度利益率の改善に取り込める見込みでしょうか。

バルテス・ホールディングス株式会社 × DAIBOUCHOU | 2026年9月14日 (月)
4442 東証グロース市場

質疑応答

■バルテス・ホールディングス 田中様



13

生成AIテストツールを活用する案件については、請負契約への切り替えや単価体系の見直しを進めることで、価格の下落は一定程度回避できると考えております。

また、当社は20年以上にわたる品質・テスト領域の知見を活かし、要件定義や基本設計といった上流工程から品質向上を支援している点が強みです。加えて、生成AIテストツールの開発や、AI時代に適した品質基準の研究にも積極的に取り組んでおりますので、一般的なテスト実施を主業とする競合他社との差別化は、今後さらに進むのではないかと考えております。

その上で、ご質問いただいた生成AIテストツール類による生産性向上効果が、どの程度利益率を引き上げられるかという点ですが、現状の生成AIテストツール類の開発計画が順調に進み、要件定義からテスト実施までのテスト工程のプラットフォーム化が進めば、工程全般で5割以上の工数削減ができる案件は十分に出てくるものと考えております。仮にそうした案件にフォーカスすれば、売上総利益率を現状の30%前後から、40%もしくは50%程度まで引き上げることが可能だと考えております。

ただし、すべての案件で利用できるかということ、まだまだ越えていかななくてはならないハードルが多くございますので、ここ数年は営業利益率を数%押し上げる程度のインパクトになるうかと考えております。

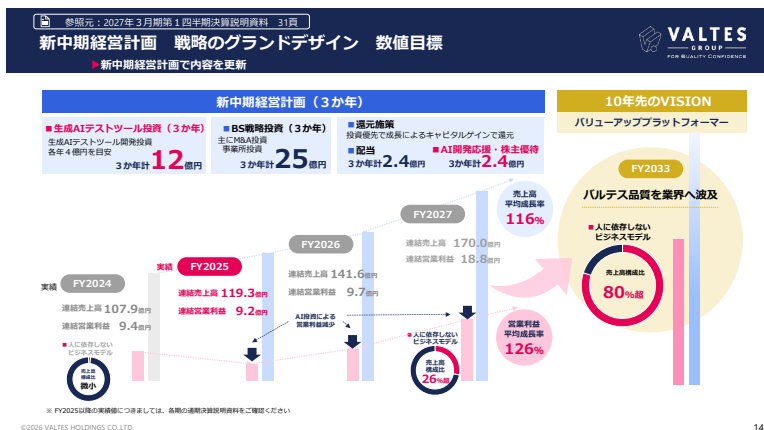
●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。次に、前期は営業利益が2.5億円ほど上振れました。当初の会社計画の前提条件と実績には、どのような差があったのでしょうか。

バルテス・ホールディングス株式会社×DAIBOUCHOU | 2026年9月14日(月)
4442 東証グロース市場

質疑応答

■バルテス・ホールディングス 田中様



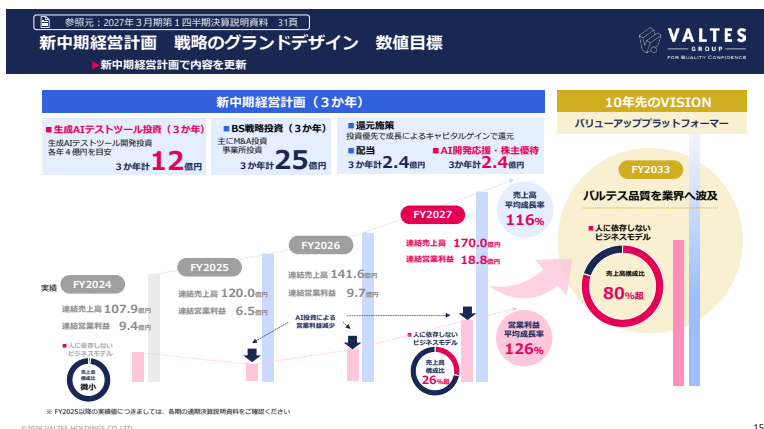
14

はい。これは割とシンプルで、まず、生成AI投資計画が4億円に対して実績3億円と、投資額が1億円ほど下振れた点が1つです。もう1つは、計画していたM&Aの実施が進まなかったことにより、仲介手数料等1億円が未使用となったことが大きな理由です。

●DAIBOUCHOU

わかりました、ありがとうございます。次に来期についてですが、営業利益率を11%に向上させ、営業利益を18.8億円へ倍増させる計画です。9億円の増益のうち、AIによる生産性改善はどの程度のインパクトを見込んでいらっしゃいますか。

■バルテス・ホールディングス 田中様



15

あくまで来期末において、請負案件の100%、準委任案件の30%で「TestScape」の利用が進んでいると仮定した場合ですが、売上総利益における理論上のAI効率化のインパクトは7億円程度、連結で4%程度の利益率改善を目指しているところです。

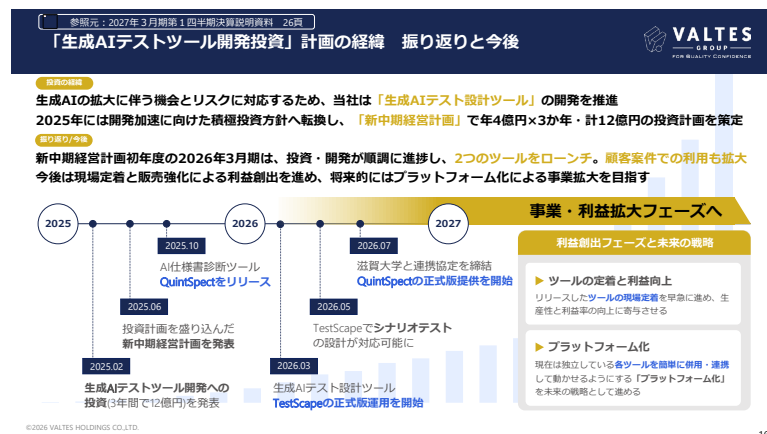
質疑応答

一方で、最終年度はAI活用の活発化による人件費の増加や、外部ツールコスト等の増加も相応に発生する計画ですので、それらを差し引いた実質的なAI効果のインパクトは3億円から4億円となる予定です。
また、当社の売上原価および販売費の中には当然に固定費がありますので、オーガニックな売上の増加に伴い、利益改善のインパクトは6億円以上発生する見込みでございます。結果的に、9億円の増益は十分可能だと考えております。

●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。次に、AIを活用したソフトウェアテスト支援ツール「TestScape」を3月25日に運用開始されました。どの程度利用されており、生産性向上や工数削減などの改善はどの程度実現できましたでしょうか。

■バルテス・ホールディングス 田中様



AIテスト設計ツール「TestScape」に関しては、前期末からじわじわとお客様の案件での利用が進んでおり、前期で5社程度、現状の第1四半期で10社ほどにご利用を開始いただいております。
生産性向上や工数削減は当然進んでおりますが、スタートしたばかりですので、定量的な分析は案件によってブレがあり、非公開とさせていただきたいと考えております。
ただ、一般的にテスト全工程の3割程度がテスト設計工程と言われており、テスト設計ツールである「TestScape」は、そのテスト設計工程の半分の削減を目標としておりますので、全体工数の約15%が「TestScape」単体での改善上限だとお考えいただければと思います。
一方で、「T-DASH」「QualityTracker」「QuintSpect」等のその他のツール類との連携が進めば、今後さらに工数削減・改善が可能だと考えておりますので、来期末においては、案件にもよりますが、全体の半分以下に工数を抑えられる案件も出てくると考えております。

バルテス・ホールディングス株式会社 × DAIBOUCHOU | 2026年9月14日 (月)
4442 東証グロース市場

質疑応答

●DAIBOUCHOU

わかりました。全体の半分以下というのは、かなりインパクトがありますね。

次に、「TestScape」は3月から正式に運用され、5月には対象範囲も拡大されました。直近の第1四半期決算では、粗利率や営業利益率の改善がまだ見られていないのですが、これはまだ利用率が低いためのなのか、研修・導入コストなどの先行費用が発生しているためのなのか、あるいは業績改善効果までにタイムラグがあるのでしょうか。

■バルテス・ホールディングス 田中様

エグゼクティブサマリー (前年同期比)			
	実績	前年同期比	
売上高	30.0億円	+9.4%	前年同期比+9.4%の過去最高売上
営業利益	▲0.0億円	-	AI投資等で販管費増加も計画通り、営業利益は計画値を上回る
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲1.0億円	-	投資先減損の影響で四半期純利益は減少も、当期着地への影響は軽微
単価 (ソフトウェアテスト)	838千円	+11千円	前年同期比で+11千円増加
案件数	1,792件	+117件	総案件数は順調に増加 (内、ツール案件数は前年同期比+70件)
稼働エンジニア数 (2026年6月末時点)	1,385名	正社員 +31名 正社員、契約社員、BP 合計 +145名	売上拡大に伴い、正社員・ビジネスパートナー共に増員

先にご回答申し上げましたとおり、「TestScape」を利用している案件は第1四半期で10社程度と、まだまだ少ないのが現状です。やはりクローズド環境でのAI利用を求めるお客様が多い点がボトルネックとなっており、当社といたしましても生成AIのクローズドな利用環境の整備を、滋賀大学様とも連携しながら早期に構築していきたいと考えております。今期を通してそうした環境整備が進めば利用数も引き上げられると考えておりますので、期末には多少の利益率の改善を感じていただけるのではないかと考えております。

一方、当第1四半期に関しては、前年に開示いたしました新中期経営計画でお示した生成AIテストツール開発の積極化により、生成AI開発投資や社外の生成AIツール類の利用が前年対比で大幅に増えたことから、前年同期比では利益率が低下しております。ただし、もともとこの点は予算にも織り込み済みでございます。対予算で申し上げますと営業利益率は好調に推移しておりますので、ご安心いただければと思います。

●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。第1四半期は見た目が悪く、進捗も芳しくないように見えますが、第2四半期以降は、生成AIなどによるコストダウンや生産性向上で巻き返し、計画どおりに着地できるというニュアンスで受け止めてよろしいでしょうか。

■バルテス・ホールディングス 田中様

はい、そのとおりです。ありがとうございます。

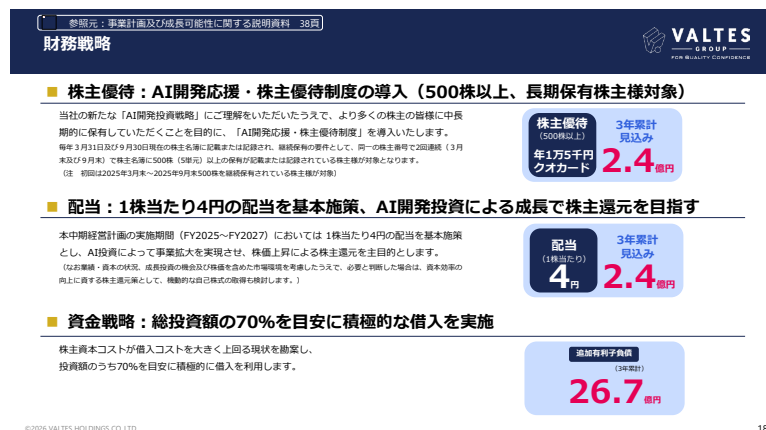
バルテス・ホールディングス株式会社×DAIBOUCHOU | 2026年9月14日(月)
4442 東証グロース市場

質疑応答

●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。最後に株主還元についてです。現在は成長投資を優先する方針と理解していますが、どの程度投資機会がなくなれば、増配や自己株式取得などをご検討されますでしょうか。

■バルテス・ホールディングス 田中様



おっしゃるとおり、今後の成長性や生産性を担保するために、現在は積極的に投資をさせていただいております。あわせて、プライム市場への上場も強く目標として掲げておりますので、まずはプライム上場基準の財務基準、つまり純資産50億円の達成が、増配や自己株式取得のトリガーになろうかと存じます。

そういう意味では、新中期経営計画の最終年度でもある来期の計画達成が見えてくるのが、自己株式取得や増配の1つの条件だと言えます。

とはいえ、前年もそうでしたが、株価をにらみつつ、必要であれば株主の皆様にご納得いただける施策とともに、柔軟な資本政策を展開していく姿勢は持っております。可能性がゼロというわけではございませんし、必要だと判断すれば早期に判断する姿勢も当社の特徴でございますので、今後は資本政策にもご期待いただければと思います。

●DAIBOUCHOU

ありがとうございます。株主優待は500株の長期保有株主が対象ではありますが、非常に利回りがよく、株主還元にも力を入れていらっしゃるということで、大変よいのではないかと思います。

■バルテス・ホールディングス 田中様

ありがとうございます。

●DAIBOUCHOU

この「AI開発応援」というのは、どういった意味なのでしょう。

質疑応答

■バルテス・ホールディングス 田中様

安定株主を募るところです。

●DAIBOUCHOU

なるほど。貴社のAI開発は長くかかるとお考えで、そうしたAI開発を長い目線で長期保有して応援いただける株主を集めたい。それに報いるために、株主優待でクオカードをお渡しするということですね。

■バルテス・ホールディングス 田中様

はい、そのとおりです。ありがとうございます。

●DAIBOUCHOU

わかりました。ありがとうございます。今後の御社の成長に注目させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

■ 終わりの挨拶

▲フィスコ 高井

田中様、DAIBOUCHOUさん、本日はありがとうございました。

バルテスホールディング様がこれまで培ってこられたソフトウェア品質に関する知見を強みにしながら、生成AIという大きな変化を新たな成長機会につなげようとしていることが非常によくわかりました。

それでは最後に、お二方から視聴者の皆様へご挨拶をお願いできればと思います。

まずは田中様から、お願いいたします。

■バルテス・ホールディングス 田中様

本日はご視聴いただきまして、誠にありがとうございます。この度、この動画をご覧いただき、少しでも当社に興味・関心をお寄せいただけたら幸いです。DAIBOUCHOU様ならびに本運営に携わっていただきました皆様におかれましても、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

▲フィスコ 高井

ありがとうございます。

それでは、DAIBOUCHOUさんにも本日の対談を振り返ってのご感想をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

●DAIBOUCHOU

はい。生成AIや「SaaSの死」など、さまざまなことが言われる中で、テスト工程の内製化が進み、外注が減ってしまうのではないかとこの脅威を心配される方も多いと思います。しかし、本日うかがったお話では、むしろ追い風になる部分もあり、コスト削減や生成AIによる生産性の向上、テストツールによる自動化などによって収益性が改善されるとのことでした。目標とされている営業利益18.8億円が達成できれば、かなり強いインパクトがあるのではないかと思います。それに向けて、株主優待を活かして500株を長期保有するというのも、よいのではないかと考えております。本日はどうもありがとうございました。

▲フィスコ 高井

はい、ありがとうございました。

それでは、これにて本日の対談を終了いたします。

皆様、最後までご視聴いただき、誠にありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp